



YOKOGAWA 

100年を超える社史を誇り、計測・制御・情報ビジネス分野をリードする「横河電機」が、顧客ポータルを含むWebサイトの確実な防御に向け、SecureSphere for Amazon Web Servicesを採用

1915年9月の創業から101年が経過した今も、その創業精神を確実に受け継ぎ、「計測と制御と情報をテーマにより豊かな人間社会の実現に貢献する」という企業理念の下、幅広いビジネスを展開する横河電機株式会社（以下、横河電機）。お客様に高品質の製品やサービスをお届けするためには、変化を恐れず常に新しいことに挑戦するという、創業以来受け継いできた精神は今も変わっていません。

グローバル企業として世界中のお客様に製品やソリューションを提供する会社にとって、顧客接点とも言えるポータルサイトやサービス系システムは、重要かつ不可欠な存在となっています。企業システムにおけるクラウド化の潮流が加速する中、横河電機でもグローバルに展開するWebサイトのレスポンス改善とコスト削減に向け、オンプレミス環境からAWS環境へのシステム移行を決定。そして、この移行を機に必要な不可欠となったのが、インターネット上の様々な脅威や攻撃からAWS上に展開するWebサイトを確実に保護するための仕組みでした。

### 課題：“セキュリティの専門家ではない” 現場担当が運用できるWAFの実現

多くのグローバル企業に見られるシステムトレンドと同様に、横河電機でもWebサイトを運用するためのシステム基盤としてクラウドサービスの利用を考え、2014年にはAWSの採用を決定しました。この決定に伴い、情報システム本部に所属し、グローバルにパートナー向けビジネスを推進するYGSP部では、部門で運用するグローバルに展開していたお客様専用のポータルサイトや同サービス系システム、さらに購買系システムなどを従来のオンプレミス環境からAWS上に移行することを決定しました。移行の狙いはサイト利用時におけるレスポンスの改善と運用コスト削減でしたが、同時にAWS上でのセキュリティ対策、特にWebサイトをターゲットとした各種の攻撃からサイトコンテンツ等を保護するための仕組みが不可欠となりました。しかし、ここで課題となったのは、部門内にセキュリティの専門家が存在しないことでした。当時の状況について、情報システム本部 YGSP部の山下じゅん子氏は、次のように話します。



横河電機株式会社  
情報システム本部 YGSP部  
山下じゅん子 氏

「社内にCSIRT組織を持っているような企業とは異なり、私達の部門には、セキュリティに関する専門家は存在せず、運用は基本的にアウトソーシングという形態をとっています。しかし、AWS上のWebサイトやそのコンテンツ、そしてアプリケーションの確実な保護は必要不可欠な要件です。このため、“セキュリティに関する素人”とも言える私達が、外部委託という形態でも確実に、そして最小の負荷で運用できるWAF (Web Application Firewall) の仕組みが不可欠となったのです」

グローバルにビジネスを展開し認知度も高い同社のWebサイトでは、海外、特にアジア圏の国から攻撃を受けるケースが多く、正月やお盆など長期休暇の時期を狙った攻撃が頻発しました。もちろん、以前のオンプレミス環境も含め、これらの攻撃を排除するための対策は講じていたため、改ざんなどの実質的な被害には至りませんでした。ログの解析などセキュリティに関連した作業の負荷は決して小さくはありませんでした。WebサイトのAWS移行を機に、このような内部担当者の負荷を軽減し、その一方でより確実な防御を実施するために、2014年中旬、同社では各種の攻撃からWebサイトを防御するためのWAFソリューションの選定を開始しました。

## YOKOGAWA

### 顧客名

横河電機株式会社

### 課題

- ・ ログ解析などセキュリティ管理に伴う高い運用負荷
- ・ AWSへの移行に伴い急務となったWAF機能の導入
- ・ 単独VPCを実現できるWAFソリューション

### ソリューション

SecureSphere for Amazon Web Servicesを導入しAWS上で展開されるWebサイトを確実に保護。単独VPCに対応すると共に、容易かつ確実なセキュリティ運用を実現

### 導入効果

- ・ セキュリティの専門家ではない担当者でも運用できるWAFを実現
- ・ 解放された社内リソースをより付加価値の高い仕事に振り向けることが可能に
- ・ 大きな運用負荷をかけることなくWebサイトを各種攻撃から確実に保護

## 導入の経緯:セキュリティゲートウェイを実現できる唯一のAWS向けのWAFとしてImpervaを採用

セキュリティ運用における負荷軽減と共に、該当ソリューション選定における要件として不可欠となったのが、「セキュリティゲートウェイの実現」というテーマでした。山下氏は、「ビジネスでAWSを使用する過程では、VPCが増加していくことが予想されます。このため、個々のアプリケーション毎にWAFを設定していく形態ではなく、WAFを導入した単独のVPCに対して、複数のVPCを接続する構成が実現できるソリューションを求めています」と話します。

こんな中、同社はガートナーが公開するセキュリティソリューションに関する調査資料の中でImpervaの存在を知ります。Impervaが提供する「SecureSphere for Amazon Web Services(AWS)」は、Webをターゲットとした各種の攻撃からAWSクラウド上にホストされているアプリケーションを保護し、データ侵害を回避するためのソリューションであり、非常に容易な運用が可能である点も同社の要件に合致していました。さらに、2014年後半にはセキュリティゲートウェイ実現のキーとなるVPC Peeringの対応も可能となりました。

「WAFにおける圧倒的な実績や容易な運用が可能である点に加え、AWS環境でセキュリティゲートウェイの対応を実現できるのは、ImpervaのSecureSphere for AWSだけでした。このため、私達が掲げたセキュリティ要件を満たすことのできる唯一のソリューションとしてその採用を決定しました」(山下氏)。こうして2014年末、SecureSphere for AWSの正式採用が決定され、2015年4月には、実運用が開始されました。

## 導入効果:セキュリティに関わる運用負荷を最小化し、社内リソースをより付加価値の高い作業に振り向けることが可能に

導入から約1年半の実運用を通じて、SecureSphere for AWSの導入効果は明確に発揮されました。山下氏は、最初に運用負荷の軽減と社内リソースの有効活用というメリットに言及しました。

「私達のような“セキュリティの専門家ではない”担当者が、ストレスなく簡単に運用できるという意味で、Impervaの採用は正しかったと確信しています。これにより、以前はWebセキュリティに関わる作業としてログの確認やセキュリティパッチ対応などを行っていた担当者を該当作業から解放することができました。定期的にかかっていたその人件費を削減できたことは非常に大きな導入メリットと言えます。しかしもっと重要なのは、この担当者をセキュリティ対応に費やされる単純作業から、より付加価値の高い“本来対応すべき上流の作業”に振り向けられるようになった点です」(山下氏)



横河電機株式会社  
情報システム本部 YGSP部  
吉田政幸 氏

横河電機株式会社  
情報システム本部 YGSP部  
山下 じゅん子 氏

### お客様コメント

以前はセキュリティに関わる単純作業を行っていた担当者を解放し、定期的にかかっていたその人件費を削減できたことは大きな導入メリットです。しかしもっと重要なのは、この担当者をより付加価値の高い“本来対応すべき上流の作業”に振り向けられるようになった点です。

担当者による手作業でのセキュリティ対応では、実質的な作業負荷だけでなく、各事業部門がセキュリティパッチを本当にあてていることを確認するなど、ある意味“後ろ向き”な作業が発生します。山下氏は、「疑って調べるという対応ではなく、疑わなくても済むのが真のセキュリティ対応だと思います」と強調します。

山下氏と共にWeb運用に関わる情報システム本部 YGSP部の吉田政幸氏は、「運用の容易さに加え、導入やチューニングが非常に楽なこともSecureSphere for AWSのメリットと考えています。すぐに導入が完了し、その後はデータを流しながらブロックする対象を絞り込んでいくという対応で進めることができました。導入後の1年半を通じて、本WAFソリューションに関係したトラブルは全く発生していません」と話します。

現在、お客様ポータル等を含む同社のWebサイトでは、ログをAmazon S3に出力しSplunkで分析をかけるという流れで運用状況を把握しています。

「実際にセキュリティに特化した社内CSIRT組織を持つ企業は、決して多くはないと思います。私達と同様に決してセキュリティの専門家と言えない現場担当者がWebの運用を担当している場合には、SecureSphere for AWSの導入こそが最良のソリューションとなると思います」(山下氏)

### 今後の展望:Impervaをより有効活用するためのユーザーグループ設立に期待

セキュリティ関連作業負荷の低減と社内リソースの有効活用など、期待通りの導入効果を楽しんだ横河電機では、今後もSecureSphere for AWSを活用してWebサイトの保護を継続していきます。

最後に山下氏は、Impervaをより有効活用していくための施策に触れ、将来的なユーザーグループの設立について以下のように締めくくりました。

「これまで企業内のセキュリティ担当者は、1人でシステムログを解析し黙々と作業を進めるといった立場にあったと思います。しかし、セキュリティの世界では、今後益々情報共有が重要となると考えています。Web上での脅威や攻撃に関して情報を共有したり、対策方法を話し合ったりするような機会が有効になることは確実なので、Imperva製品に関わるユーザーグループが立ち上げられることを期待しています」

次の100年に向け、果敢な挑戦を継続する横河電機。

こんな同社のビジネスにおいて不可欠な顧客接点と言えるWebサイトの「容易」で「安全・安心」な運用を実現し、決してセキュリティの専門家ではないYGSP部の担当者を日々支援しているのは、Impervaが提供するSecureSphere for AWSなのです。

株式会社 Imperva Japan  
www.imperva.jp  
Mail: FM-Japan@imperva.com  
TEL: 03-6263-0671